



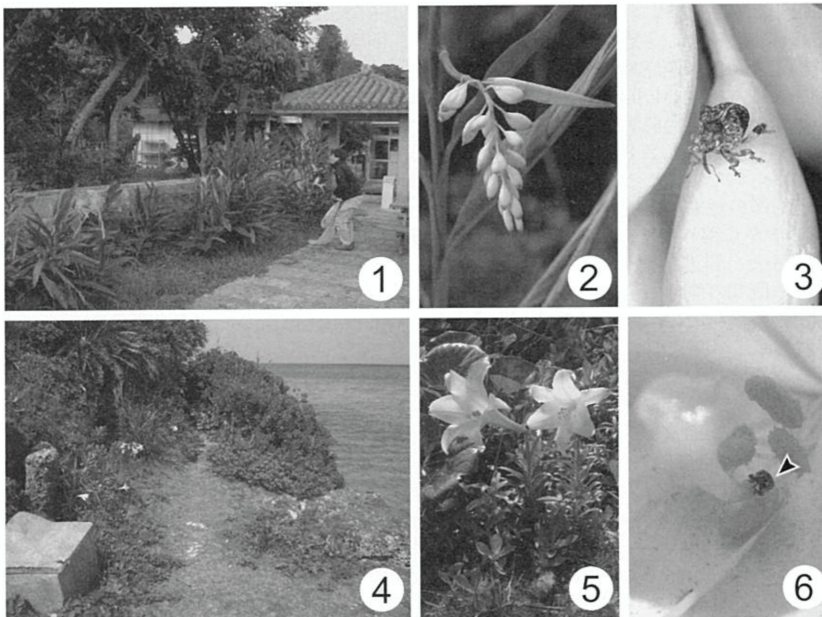
台湾からの移入種ゲットウトゲムネサルゾウムシ（コウチュウ目：ゾウムシ科）の
沖縄島における分布状況について

吉武 啓・上地奈美・平野幸彦

A Distributional Note on a Taiwanese Ceutorhynchine,
Xenysmoderes consularis (PASCOE) (Coleoptera: Curculionidae),
Established on Okinawajima Island, Ryukyus, Japan

Hiraku YOSHITAKE, Nami UECHI and Yukihiro HIRANO

ゾウムシ科サルゾウムシ亜科に属するゲットウトゲムネサルゾウムシ（和名新称）*Xenysmoderes consularis* は、PASCOE (1869) によってトゲムネサルゾウムシ属 *Mecysmoderes* の一種として記載されたが、YOSHITAKE (2005) はその形態的・生態特徴から同じトゲムネサルゾウムシ族 *Mecysmoderini* の *Xenysmoderes* 属に移した。本種は、台湾本島と緑島に分布し、台湾本島ではハナミョウガ属植物 *Alpinia* spp.（ショウガ科）を寄主



Figs. 1-6. *Xenysmoderes consularis* (PASCOE) established on Okinawajima Island, Ryukyus, Japan (photo by Naoko NAKAHARA). 1. Habitat in Nakagusuku. 2. *Alpinia zerumbet* (Zingiberaceae), host plant in Okinawajima Island. 3. An adult on a flower bud of *A. zerumbet*. 4. Habitat in Nakijin. 5. Flowers of *Lilium longiflorum* (Liliaceae), one of the adult food sources in Okinawajima Island. 6. An adult in a flower of *L. longiflorum*.

とし、成虫期には寄主をはじめとするさまざまな植物の花を、幼虫期には寄主植物の花蕾を餌資源として利用することが知られており、蘭嶼島にはゲットウ *Alpinia zerumbet* を寄主とする近似種が分布する (YOSHITAKE, 2005)。

日本では、1998 年に沖縄島の都市部 (首里) で 2 頭が初めて採集されたが、同島を含む琉球列島には、本種の寄主となり得るハナミョウガ類が自生・植栽共にごく普通に見られるだけでなく、戦後多数の昆虫研究者・愛好家が幾度となく調査に訪れているにも関わらず、他に全く採集例がないことから、YOSHITAKE (2005) は沖縄島産を台湾から人為的に移入したものとみなした。その後、沢田 (2006) によって同島本島半島産の標本が紹介された他、三宅・野林 (2008) によって浦添大公園のゲットウ花上で得られた本種の記録が報告された。これらの記録は、*X. consularis* が 1990 年代後半に沖縄島に侵入し、その後定着した可能性を示唆しているが、同島内での本種の分布・定着状況については未だ不明な点が多い。

近年、我々は沖縄島内の 5 地点で *X. consularis* の生息を確認する機会に恵まれた。同島における本種の分布状況を知る上で重要な記録と考えられるため、若干の生態的知見と共にここに報告する。

15 頭、沖縄県浦添市当山浦添大公園, 11. v. 2005, 上地奈美採集, ゲットウ, 農業環境技術研究所保管 (所蔵昆虫標本番号 24-0469912~24-0469926); 28 頭、沖縄県那覇市首里崎山町旧沖縄県農業試験場, 27. vi. 2005, 上地奈美採集, ゲットウ, 農業環境技術研究所保管 (所蔵昆虫標本番号 24-0469927~24-0469954); 18 頭、沖縄県中城村新垣中城パーキングエリア, 20. iv. 2010, 吉武 啓・中原直子採集, ゲットウ, 農業環境技術研究所保管 (所蔵昆虫標本番号 24-0469580~24-0469586); 他 11 頭はエタノール液浸標本); 1 頭、沖縄県恩納村山田, 14. iv. 2006, 平野幸彦採集・保管; 2 頭、同地, 20. iv. 2010, 平野幸彦採集・保管; 6 頭、沖縄県今帰仁村諸志佐田浜海岸赤墓, 23. iv. 2010, 吉武 啓・中原直子採集, テッポウユリ, 農業環境技術研究所保管 (所蔵昆虫標本番号 24-0469906~24-0469911)。

中城村産の標本は、沖縄自動車道の中城パーキングエリア内に植栽されたゲットウの花苞あるいは苞葉上で得られたものである (Figs. 1, 2, 3)。当地で花苞内より卵と幼虫が確認されたことや、他の産地においてもゲットウから成虫が得られていることから、*X. consularis* は沖縄島ではゲットウを寄主として利用していると考えられた。今帰仁村産の標本は、琉球王朝時代の史跡である王族墓地においてテッポウユリ *Lilium longiflorum* (ユリ科) の花の中から得られたものであり、採集時に成虫が花粉や花弁などの花器を摂食するのが観察された (Figs. 4, 5, 6)。また、付近にはゲットウが植えられており、そこでも本種の成虫が見られた。

沖縄島における既知の産地 (Fig. 7) は全て園地などの人為的環境であり、少なくとも複数年にわたって採集例がある浦添市と恩納村では、本種が継続的に発生していると考えられる。また、那覇市在住の杉本雅志氏によると、近年名護市内の園地でも本種が得られているそうである (私信, 2010)。沖縄島では、比較的自然度の高い山地では未だ発見されていないが、林内・林縁にアオノクマタケラン *Alpinia intermedia* が自生しているだけでなく、道脇や農園などには、植栽されたゲットウも多く見られるので、今後このような場所も注意して見る必要があるだろう。

なお、本種には「モンスデサルゾウ」という古名があるが (三輪, 1931)、過去にほとんど使用実績がないことや、そのままだと分類学的位置がわかりにくいことなどから、トゲムネサルゾウムシ族の一員であることを示す基幹和名「トゲムネサルゾウムシ」を、日本での本種の寄主植物名「ゲットウ」で修飾する形で新称を与えたことを付記しておく。また、本文中で使用した植物の和名および学名は「BG Plants 和名一学名インデックス」 (http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html) に従った。

末筆ながら、沖縄島における本種の分布情報を提供していただいた杉本雅志氏とゾウムシの生態写真を撮影して下さった中原直子氏 (茨城県つくば市) に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 三宅 武・野林千枝, 2008. 国内記録の少ないサルゾウムシの 1 種を採集. 月刊むし, (446): 43.
三輪勇四郎, 1931. 台湾産昆虫目録 (鞘翅目). 台湾総中研農業部報告, 55: 1-359.



Fig. 7. Map showing the known localities of *X. consularis* on Okinawajima Island.

PASCOE, F. P., 1869. Contributions towards a knowledge of the Curculionidae. Part I. *Journal of the Linnean Society of London, Zoology*, 10: 434-493, pls. 17-19.

沢田佳久, 2006. コレクションの紹介 研究のリレー. *ひとくはく通信ハーモニー*, (52): 6.

YOSHITAKE, H., 2005. Taxonomic position of a Taiwanese Ceutorhynchine, *Mecysmoderes consularis* PASCOE (Coleoptera: Curculionidae), with description of an allied new species from Lanhsu Island. *Coleopterists Bulletin*, 59: 7-22.

(吉武: 農業環境技術研究所; 上地: 果樹研究所; 平野: 神奈川県小田原市)

○南西諸島産チビジョウカイ類 3 種の分布記録

これまでに 18 種のチビジョウカイ類 (ジョウカイボン科チビジョウカイ亜科に属する甲虫類) が南西諸島から知られている. しかし各種の既知産地は少数の限られた地域であることが多く, それぞれの分布域の詳細については更なる調査が必要であると考えられる. 筆者は南西諸島より知られる下記 3 種のチビジョウカイ類の標本を検査する機会を得たので, 各種の全形図とともに記録しておきたい.

市自博蔵); 1♂1♀, 同所, 1. IV. 2003, 中田唯文採集 (倉敷市自博蔵); 1♂, 沖縄県石垣島於茂登岳, 26. III. 2003, 中田唯文採集 (倉敷市自博蔵); 2♂♂, 沖縄県与那国島久部良岳, 19. III. 2005, 村尾竜起採集.

3. リュウキュウチビジョウカイ *Maltypus ryukyuanus* WITTMER, 1970 (図 3)

本種は宮古島・石垣島・竹富島および西表島より知られ, 南琉球に広く分布すると考えられるものの



図 1~3. 南西諸島産チビジョウカイ類.

1. ヤクシマクロチビジョウカイ *Malthodes yakushmanus yakushmanus* N. TAKAHASHI, 2001 (図 1)

鹿児島県屋久島小杉谷を基準産地として記載された種であるが, 今回は同島内に設置されたマレーズトラップによって採集された標本を検査することができた.

3♂♂1♀, 鹿児島県屋久島荒川 (原生的照葉樹林, 標高 1,200 m), 7-28. III. 2007, 山内健生ほか採集.

2. タイペイチビジョウカイ八重山亜種 *Malthodes taipehanus ros* N. TAKAHASHI, 2001 (図 2)

本種は沖縄県与那国島を基準産地として記載され, 八重山諸島の石垣島および与那国島に分布することが報告されている (TAKAHASHI, 2001). 原記載に用いられた石垣島産の標本は於茂登岳で採集された 1♂1♀であったが, 今回別産地の標本を検査することができたので他の標本とともに報告しておきたい.

1♂, 沖縄県石垣島ぶざま岳, 24. III. 2003, 中田唯文採集 (倉敷市立自然史博物館所蔵; 以下, 倉敷

(TAKAHASHI, 2004), 既知産地は少ない. 今回, 石垣島において採集された以下の標本を検査することができた.

1♂4♀♀, 沖縄県石垣島平久保, 13. III. 2003, 中田唯文採集 (倉敷市自博蔵); 3♀♀, 同所, 28. III. 2003, 中田唯文採集 (倉敷市自博蔵); 2♀♀, 沖縄県石垣島於茂登岳, 26. III. 2003, 中田唯文採集 (倉敷市自博蔵).

末筆ながら, 所蔵標本の検討と発表をお許しいただいた倉敷市立自然史博物館の奥島雄一博士, 貴重な標本をご恵与いただいた富山県衛生研究所の山内健生博士ならびに九州大学総合研究博物館の村尾竜起博士に厚く御礼申し上げます.

引用文献

TAKAHASHI, N., 2001. Taxonomic study of the genus *Malthodes* from Japan (Coleoptera: Cantharidae) I. Discovery of new species in the Nansei Islands, Southwest Japan. *Ent. Sci., Tokyo*, 4: 89-108.

———, 2004. Notes on *Maltypus ryukyuanus* WITTMER (Coleoptera: Cantharidae), with a new distributional record in Japan. *Esakia, Fukuoka*, (44): 197-204.

(九州大学, 高橋直樹)

○ヒゲブトケシタマムシの石垣島における記録

ヒゲブトケシタマムシ *Aphanisticus antennatus* E. SAUNDERS, 1873 は、九州を模式産地として記載され、原記載以降は杉本・福富(2002)において沖縄県金武町から記録されただけである。国外では中国とインドシナ地域から知られている(黒澤, 1975; 秋山・大桃, 1997)。

筆者の一人である末長は、沖縄県石垣市宮良にある底原ダム周辺において、八重山諸島初記録になる本種を確認したので報告する。



写真. ヒゲブトケシタマムシ.

1 ex., 沖縄県石垣市宮良底原ダム, 31. III. 2010, 末長採集・福富保管。(写真)

ダムに沿った遊歩道の奥にイネ科草本類が群生した草地があり、そこをスワイピングして得られた。同定に際しては、沖縄島産の個体と比較した。

末筆ながら、本報を執筆するにあたり多大な助言を下された愛媛大学農学部の吉富博之博士と沖縄県の杉本雅志氏、本稿を校閲して下さった酒井雅博博士に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 秋山黄洋・大桃定洋, 1997. 日本産タマムシ科チェックリスト. 月刊むし Supplement 1. 67 pp. むし社, 東京.
 黒沢良彦, 1975. 日本産タマムシ科概説(15). 甲虫ニュース, 東京, (31, 32): 1-4.
 杉本雅志・福富宏和, 2002. ヒゲブトケシタマムシを沖縄

島より採集. 月刊むし, 東京, (373): 43.

(愛媛県松山市, 末長晴輝;
 石川県白山市, 福富宏和)

○石川県におけるケスジドロムシの初確認

ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* NOMURA (図1) は、河川改修によって減少しており、環境省 RDB では準絶滅危惧種に指定されている(環境省, 2006)。筆者は石川県初記録となる本種を採集したので、ここに報告する。



図1

8 exs., 石川県鳳珠郡能登町字北河内, 20. VI. 2010, 筆者採集・保存.

採集された場所は、町野川の最上流部の河川で、植物の根際から得られた。個体数は比較的多く、ムナビロツヤドロムシなどと同所的に生息していた。他には、サワダマメゲンゴロウ、オナガミズスマシ、ムカシトンボのヤゴなどが見られた。同水系では他の場所にも生息している可能性があり、より詳細な調査が期待される。

末筆ではあるが、現地の貴重な情報を提供していただいた谷口正成氏、佐野禎宣氏にお礼を申し上げます。

引用文献

- 環境省自然環境局野生生物課, 2006. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—昆虫類—. 184 pp. 環境省.
 緒方 健・中島 淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 231-232.
 佐藤正孝・吉富博之, 2005. 鞘翅目 Coleoptera. 川合禎次・谷田一三(編), 日本産水生昆虫—科・属・種への検索: 636-641. 東海大学出版会.
 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II): 433-440. 保育社.
 (愛媛大学大学院農学研究科, 渡部晃平)

温帯広葉樹二次林において階層別水盤トラップにより得られた
石川県未記録のゾウムシ上科

高田兼太・小路晋作・小島弘昭・後藤秀章・中村浩二

Records of some curculionoid beetles from Ishikawa Prefecture,
with notes on their vertical distribution in a
secondary deciduous forest

Kenta TAKADA, Shinsaku KOJI, Hiroaki KOJIMA,
Hideaki GOTO and Koji NAKAMURA

〈はじめに〉

水盤トラップは、訪花性昆虫をはじめとする様々な昆虫類の採集法として広く利用されている (SOUTHWOOD, 1978; BASSET *et al.*, 1997; LEONG and THORP, 1999; CAMPBELL and HANULA, 2007). 水盤トラップが森林の樹冠部における昆虫相調査に用いられる機会は少ないが (BASSET, 1985), 観測タワーなどに設置することにより調査が可能である (LEKSONO *et al.*, 2005a; 2005b). 筆者らは、広葉樹二次林内に設置された樹冠部観測用タワーの高さ別に水盤トラップを設置して甲虫相を調査したところ、石川県で未記録と思われる種を多数採集した。本報告文では、このうちゾウムシ上科 (ヒゲナガゾウムシ科, ゾウムシ科, キクイムシ科) に属する種について報告する。

〈調査方法〉

石川県金沢市に位置する金沢大学角間キャンパス (36°32' N, 136°42' E, 50~160 m a.s.l.) 内に設置された樹冠部観測用タワーにおいて調査を行った。観測用タワーは丘陵地の尾根筋に位置し、周辺の植生はコナラ *Quercus serrata* THUNBERG et MURRAY やアベマキ *Quercus variabilis* BLUME (ブナ科 Fagaceae) が優占する二次林であった (調査地の詳細については LEKSONO *et al.*, 2005a を参照)。観測用タワー (高さ 20 m) の最上部は森林の樹冠部上部に達していた。観測用タワーの上層 (20 m. 高木層), 中層 (10 m. 亜高木層), および下層 (0.5 m. 低木層) に、黄色と青色の水盤トラップ (幅 29 cm, 奥行き 16 cm, 深さ 10 cm) を 2 器ずつ、計 12 器設置した。水盤トラップの中には、防腐剤としてソルビン酸と少量の合成洗剤を加えた水を約 2 リットル程度入れた。2000 年 5 月 13 日から 12 月 2 日にかけてトラップを回収し、合計 28 回のサンプリングを行った。採集された甲虫の標本は、現在金沢大学で保管中である。なお、石川県におけるゾウムシ上科の記録を確認するにあたり、高羽・他 (1998), 江崎・野平 (2003), 江崎・他 (2004) および「森林防疫」誌の森林病虫獣害発生情報 (全国森林病虫獣害防除協会) などを参照した。

〈結果と考察〉

本調査により得られた石川県初記録のゾウムシ上科 Curculionoidea の採集記録を示す。なお、各種の採集地と採集者は以下の通りである。

採集場所: 石川県金沢市角間町 (コナラ・アベマキ林)

採集者: 小路晋作, 高田兼太

1. アサノミヒゲナガゾウムシ *Citacalus pygidialis* JOHRAKU

(ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae)

1 頭, 水盤トラップ (青色), 高木層 (高さ 20 m), 24-VI-2000.

本種は、稀な種として知られている (森本, 1989).

2. チビアオクチプトゾウムシ *Hyperstylus pallipes* ROELOFS

(ゾウムシ科 Curculionidae)

1 頭, 水盤トラップ (青色), 亜高木層 (高さ 10 m), 1-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 高木層 (高さ 20 m), 8-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 亜高木層 (高さ 10 m), 16-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (黄色), 高木層 (高さ 20 m), 16-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (黄色), 高木層 (高さ 20 m), 22-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 亜高木層 (高さ 10 m), 29-VII-2000.

1 頭, 水盤トラップ (青色), 低木層 (高さ 0.5 m), 29-VII-2000.

- 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 亜高木層(高さ10 m), 29-VII-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 高木層(高さ20 m), 5-VIII-2000.
 本種は, 7月上旬から8月上旬に黄色・青色トラップの両方で採集された。また, 採集された9頭のうち, 8頭が亜高木層または高木層から採集された。本種は, やや開けた環境でハギなどのマメ科植物から見つかり, まとまった個体数が得られることもあるものの, 分布はやや局所的である。
3. コーヒーキクイムシ *Dryocoetiops coffeae* (EGGERS)
 (キクイムシ科 Scolytidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 27-V-2000
4. ニイシマキクイムシ *Sueus niisimai* (EGGERS)
 (キクイムシ科 Scolytidae)
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 高木層(高さ20 m), 29-VII-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 12-VIII-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 30-IX-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 7-X-2000.
 2 頭, 水盤トラップ(青色), 低木層(高さ0.5 m), 14-X-2000.
 2 頭, 水盤トラップ(青色), 亜高木層(高さ10 m), 14-X-2000.
 本種は, 7月下旬から10月中旬にかけて, 主に青色トラップで採集された。捕獲された8頭のうち, 5頭が低木層から採集された。
5. ヨシカワキクイムシ *Xyleborus laetus* NIISIMA
 (キクイムシ科 Scolytidae)
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 亜高木層(高さ10 m), 27-V-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(黄色), 低木層(高さ0.5 m), 29-VII-2000.
 1 頭, 水盤トラップ(青色), 高木層(高さ20 m), 5-VIII-2000.

〈まとめ〉

本調査では, わずか7ヶ月間のトラップ調査により, 石川県初記録となるゾウムシ上科が計5種(ヒゲナガゾウムシ科1種, ゾウムシ科1種, キクイムシ科3種), 記録された。これは, 石川県のゾウムシ上科の種類相がいまだ十分に明らかにされていないことを示唆しており, 今後も様々な植生において調査を継続することにより, 記録種数が増える可能性がある。本調査により得られたコウチュウ目について, 科レベルの分析を行った LEKSONO *et al.* (2005b) によれば, ゾウムシ科およびキクイムシ科の採集個体数には, トラップの設置高度や色による違いは認められなかった。しかし本報告において, チビアオクチプトゾウムシ *H. pallipes* の殆どの個体が高木層あるいは亜高木層から採集されたことは, この種が明瞭な階層分布を示す可能性を示唆している。本報で報告した種を含むゾウムシ上科各種の分布の階層性, トラップの色に対する選好性, 季節消長などについては別報にて報告する予定である。

〈謝辞〉

調査を実施するにあたりご助言を賜った高羽正治氏(金沢市), 野外調査の補助をしていただいた Edian ENIF 氏に, この場をかりて御礼申し上げます。

引用文献

- BASSET, Y., 1985. Comparaison de quelques méthodes de piégeage de la faune dendrobie. *Bulletin Romand d'Entomologie*, 3: 1-14.
- BASSET, Y., SPRINGATE, N. D., ABERLENC, H. P. and DELVARE, G., 1997. A review of methods for sampling arthropods in tree canopies. In: STORK, N. E., J. ADIS and R. K. DIDHAM (eds.), *Canopy arthropods*. pp.27-52. Chapman & Hall, London.
- CAMPBELL, J. and HANULA, J. L., 2007. Efficiency of Malaise traps and colored pan traps for collecting flower visiting insects from three forested ecosystems. *Journal of Insect Conservation*, 11: 399-408.
- 江崎功二郎・野平照雄, 2003. 刈安山における甲虫類の捕獲消長およびトラップによる捕獲種の違い I. 石川県林業試験場研究報告, 34: 17-26.
- 江崎功二郎・後藤秀章・大橋章博・井上重紀, 2004. 刈安山における甲虫類の捕獲消長およびトラップによる捕獲種の違い II. 石川県林業試験場研究報告, 36: 11-16.
- LEKSONO, A. S., NAKAGOSHI, N., TAKADA, K. and NAKAMURA, K., 2005a. Vertical and seasonal variation in the abundance and the species richness of Attelebidae and Cantharidae (Coleoptera) in a suburban mixed forest. *Entomological Science*, 8: 235-243.
- LEKSONO, A. S., TAKADA, K., KOJI, S., NAKAGOSHI, N. ANGGRAENI, T. and NAKAMURA, K., 2005b. Vertical and seasonal distribution of flying beetles in a suburban temperature deciduous forest collected by water pan trap. *Insect*

Science, 12: 199-206.

LEONG, J.M. and THORP, R.W., 1999. Colour-coded sampling: the pan trap colour preferences of oligolectic and nonoligolectic bees associated with a vernal pool plant. *Ecological Entomology*, 24: 329-335.

森本 桂, 1989. ヒゲナガゾウムシ. 林 匡夫・森本 桂・木元新作 (編), 原色日本甲虫図鑑 IV. pp. 226-249, 保育社, 大阪.

SOUTHWOOD, T. R. E., 1978. *Ecological Methods*, 2nd edn. Chapman & Hall, University Press, Cambridge.

高羽正治・井村正行・西原昇吾・中田勝之・高田兼太, 1998. Coleoptera コウチュウ目. 富樫一次 (編), 石川県の昆虫. pp. 102-251, 石川県.

(高田: 金沢大学理学部)

(小路: 金沢大学地域連携推進センター)

(小島: 東京農業大学農学部)

(後藤: 森林総合研究所九州支所)

(中村: 金沢大学環日本海域環境研究センター)

○屋久島産のゴミムシ類 19 題

以下の文献に分布が記録されていない屋久島産のゴミムシ類 19 種を見出したので報告する。

1. *Clivina yanoi* KUIT, 1951 アカヒメヒョウタンゴミムシ
3 exs., 屋久町高平, 22. VII. 2002, 筆者採集.
2. *Tachyura laetifica* (BATES, 1873) ヨツモンコミズギワゴミムシ
多数, 例: 屋久町原, 17. VII. 2009, 向山敬延採集.
3. *Bembidion lissonotum* BATES, 1873 オオアオミズギワゴミムシ
多数, 例: 屋久町安房川, 11. VII. 2002, 筆者採集.
4. *Bembidion aureofuscum* BATES, 1883 カワグチミズギワゴミムシ
多数, 例: 屋久町春牧海岸, 16. VII. 2002, 筆者採集.
5. *Agonum chalconum* (BATES, 1873) アオグロヒラタゴミムシ
多数, 例: 屋久町原, 1. VII. 2002, 向山敬延採集.
6. *Colpodes atricomis* (BATES, 1873) クロモリヒラタゴミムシ
多数, 例: 屋久町原, 1. VI. 2008, 向山敬延採集.
7. *Euplynes batesi* HAROLD, 1877 ベーツヒラタゴミムシ (写真 1)
1 ex., 屋久町原, 1. VII. 2008, 向山敬延採集.
北海道, 本州, 四国, 九州に分布. やや山地の枯れ枝や薪, 粗朶などの上に見られることが多いが, 個体数は多くない.
8. *Amara hiogoensis* BATES, 1873 ヒョウゴマルガタゴミムシ (写真 2)
1 ex., 上屋久町白谷雲水峡, 14. VII. 2001, 筆者採集; 1 ex., 屋久町原, 20. IV. 2004, 筆者採集.
北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 兵庫 (Hiogo) 原産. 草地などの明るい環境で見られるが, 個体数は少なく稀種に属し, 灯火にも飛

来する. 屋久島の記録は意外であった.

9. *Anisodactylus sadoensis* SCHAUBERGER, 1931 オオホシボシゴミムシ
多数, 例: 屋久町原, 12. VII. 2002, 向山敬延採集.
10. *Platymetopus flavilabris* (FABRICIUS, 1798) カラカネゴモクムシ
多数, 例: 屋久町原, 10. X. 2009, 向山敬延採集.
11. *Acupalpus inornatus* BATES, 1873 キイロチビゴモクムシ
多数, 例: 屋久町原, 10. X. 2009, 向山敬延採集.
12. *Stenolophus fulvicornis* BATES, 1863 マメゴモクムシ
多数, 例: 屋久町原, 18. VI. 2008, 向山敬延採集.
13. *Peronomerus nigrinus* BATES, 1873 クロケブカゴミムシ (写真 3)
1 ex., 屋久町中間, 1. VII. 2008, 向山敬延採集.
本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布. 長崎原産. 河川や池沼などの湿った草地環境に生息するが個体数は多くない.
14. *Chlaenius pictus* CHAUDOIR, 1856 ミナミアトワアオゴミムシ (写真 4)
1 ex., 屋久町中間, 20. VI. 2008, 向山敬延採集.
日本では笠原 (1981) の西表島, 大原が初記録, 分布の中心は東南アジアなどで, 図鑑には九州が分布域に入っているが, これについてはよくわからない. 灯火にも飛来する.
15. *Chlaenius tetragonoderus* CHAUDOIR, 1876 ムナビロアトボシアオゴミムシ
多数, 例: 屋久町原, 25. IX. 2003, 向山敬延採集.
16. *Chlaenius hamifer* CHAUDOIR, 1876 コアトワアオゴミムシ (写真 5)
1 ex., 屋久町原, 11. VII. 2001, 向山敬延採集; 1 ex., 屋久町原, 23. IX. 2002, 向山敬延採集.

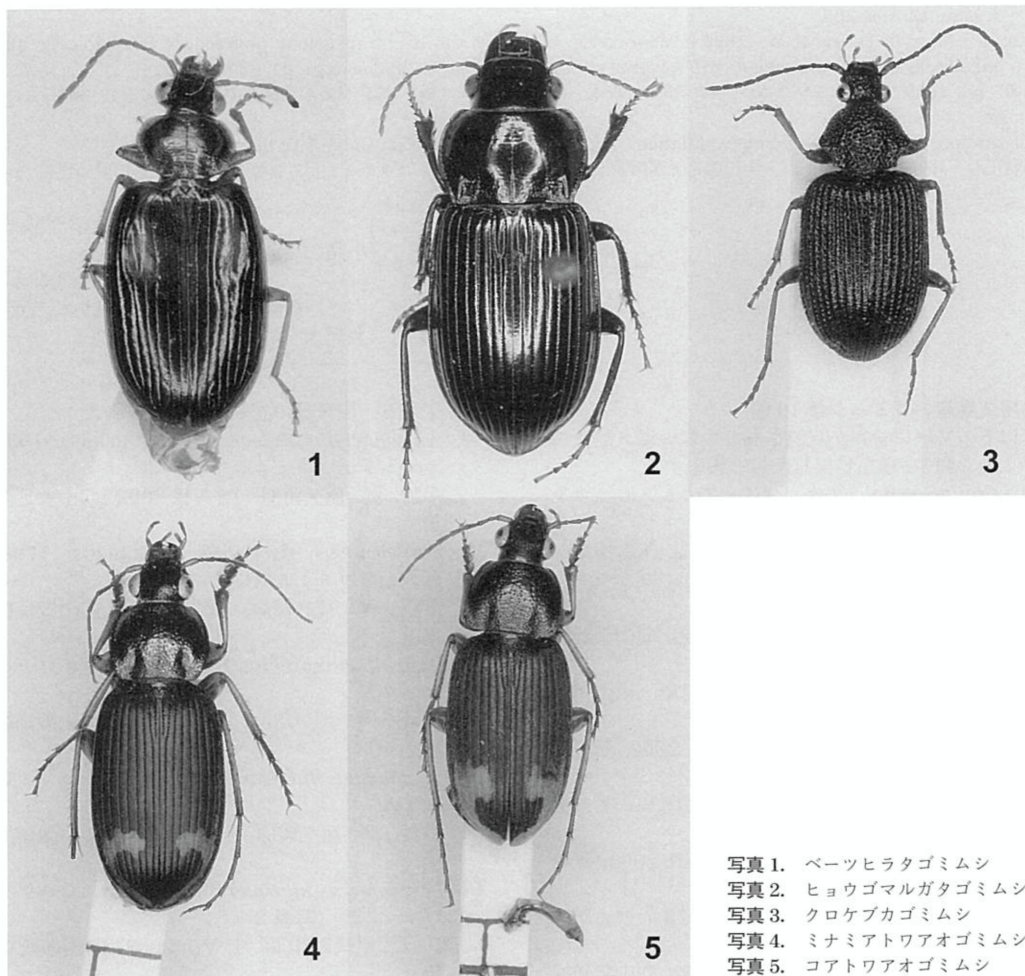


写真1. ベーツヒラタゴミムシ
 写真2. ヒョウゴマルガタゴミムシ
 写真3. クロケブカゴミムシ
 写真4. ミナミアトワアオゴミムシ
 写真5. コアトワアオゴミムシ

これも東南アジアなどに広く南方に分布する。日本初記録は上野(1964)。日本では関東以西の本州、四国、九州、南西諸島に分布し、関東地方では比較的多いが他の地域では少ない。灯火にも飛来する。

17. *Chlaenius micans* (FABRICIUS, 1792) オオアトボシアオゴミムシ
多数, 例: 屋久町安房, 15. VII. 1991, 筆者採集。
18. *Chlaenius naeviger* MORAWITZ, 1862 アトボシアオゴミムシ
1 ex., 屋久町安房, 15. VII. 1991, 筆者採集;
1 ex., 屋久町中間, 1. V. 2004, 筆者採集。
19. *Aepnidius adelioides* (MACLEAY, 1825) トゲアトキリゴミムシ
多数, 例: 屋久町原, 23. IX. 2002, 向山敬延採集。

報告に当たり向山敬延氏には貴重な標本を恵与し

ていただき、森 正人氏にはご教示を頂いた。ここにあらためてお礼を申し上げる。

参考文献

- MORITA, S., 1987. Some Carabid Beetles of the Island of Yaku-shima, Southwest Japan. *Ent. Rev. Japan*, 42(1): 69-71.
- 中根猛彦, 1985. 屋久島に産する甲虫類について. 環境庁, 601-603.
- 岡留恒丸, 1973. 屋久島の昆虫相. 屋久島教育委員会, 108-110.
- 田中 稔, 2006. 屋久島産のゴミムシ類5種の記録. 甲虫ニュース, (154): 25.
- 田中 稔, 2009. 屋久島産ホナシゴミムシ亜科1種, アトキリゴミムシ亜科7種の記録. 甲虫ニュース, (166): 4.
- 上野俊一ほか(編), 1985. 原色日本甲虫図鑑(II): 51-180. 保育社, 大阪.
- 屋富祖昌子他編, 2002. 琉球列島産昆虫目録増補改訂. 570 pp. 沖縄生物学会.

(兵庫県西宮市, 田中 稔)

○石川県未記録の水生甲虫7種の採集記録

筆者は奥能登において水生昆虫の調査を行い、石川県で未記録の水生甲虫7種を採集したのでここに報告する。なお、採集者は全て筆者である。

1. *Ochthebius hasegawai* NAKANE & MATSUI ハセガワダルマガムシ

町野川の中流と、鶴飼川・鈴屋川の上流で採集した。本種は水から頭を出している大きな石の、水際より少し上の位置の表面に生息している。個体数は多く、条件の良い石には数十匹の個体が一度に見られた。比較的どこにでも見られる種で、県内でも広く分布していると思われる。

6 exs., 石川県能登町石井 町野川, 1. XI. 2009.
3 exs., 石川県珠洲市宝立町柏原 鶴飼川, 8. XII. 2009.

3 exs., 石川県輪島市町野町寺山 鈴屋川, 9. V. 2010.

2. *Ochthebius nakanei* MATSUI ナカネダルマガムシ

町野川の中流と、鶴飼川・鈴屋川の上流でハセガワダルマガムシに混ざって得られた。どの地点でも個体数は少なかった。

1 ex., 石川県能登町石井 町野川, 1. XI. 2009.
1 ex., 石川県珠洲市宝立町柏原 鶴飼川, 8. XII. 2009.

1 ex., 石川県輪島市町野町寺山 鈴屋川, 9. V. 2010.

3. *Hydraena watanabei* JÄCH & M. SATÔ ワタナベダルマガムシ

神野川・若山川の上流部で採集した。採集地点はどちらも細流で、底の砂礫や、落ち葉の間から得ら

れた。本種を含む *Hydraena* の仲間は採集が難しいため発見され難い。本県でも、もっと綿密な調査を行うことにより、新たな生息地や他の種類が発見される可能性がある。

6 exs., 石川県能登町曾又 神野川, 2. XI. 2009.
1 ex., 石川県珠洲市若山町向 若山川, 30. IV. 2010.

4. *Ordobrevia maculate* NOMURA アカモンミゾドロムシ

町野川の最上流部にある水田横を流れる細流で採集した。本種は源流～上流を好んで生息し、流れの速い場所の底の砂礫の中から採集されたが、この地点での個体数は少なかった。

1 ex., 石川県能登町桐畑 町野川, 1. XI. 2009.

5. *Grouvellinus marginatus* KONO キベリナガアシドロムシ

町野川・紀の川上流部で採集した。本種は源流～上流域に生息し、流水中の石に付着している苔の中で得られる。

1 ex., 石川県能登町桐畑 町野川, 1. XI. 2009.
6 exs., 石川県能登町宇中斉 町野川, 15. IV. 2010.

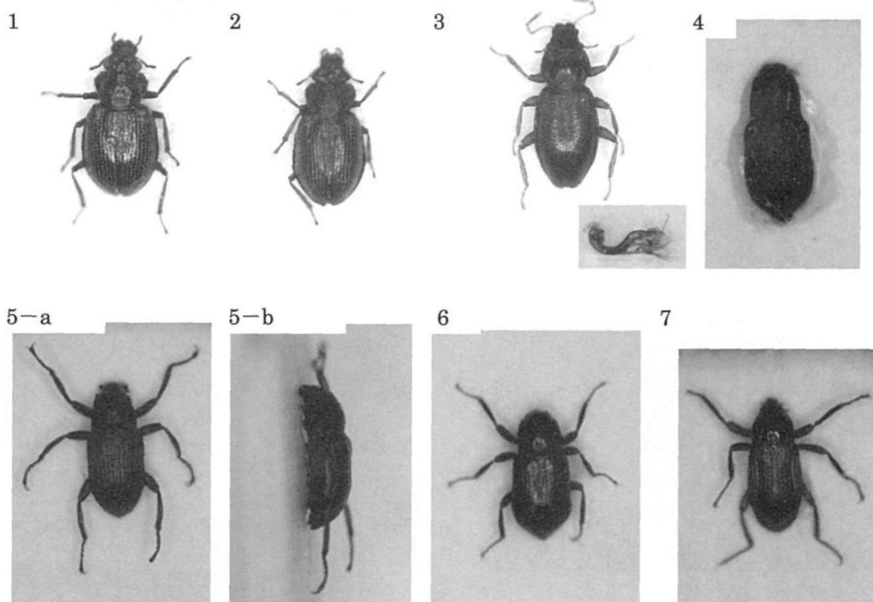
2 exs., 石川県珠洲市東山中町 紀の川, 20. IV. 2010.

6. *Zaitzeviaria brevis* NOMURA ヒメツヤドロムシ

神野川上流部の細流で採集した。底の砂礫の中からホソヒメツヤドロムシ、マルヒメツヤドロムシと同時に得られ、個体数も多かった。

5 exs., 石川県能登町曾又 神野川, 2. XI. 2009.

7. *Zaitzevia rivalis* NOMURA ミゾツヤドロムシ



神野川上流部で底の砂礫の中から得られた。

1 ex., 石川県能登町曾又 神野川, 2. XI. 2009.

1 ex., 石川県能登町桐畑 町野川, 1. XI. 2009.

3 exs, 石川県輪島市町野町寺山 鈴屋川 9. V. 2010.

末筆ではあるが、原稿を見て頂いた中島 淳博士、能登を案内していただいた野村進也氏、文献収集をご支援していただいた赤石大輔博士に心からお礼申し上げる。

引用文献

JÄCH, M. A. & SATŌ, M., 1988. The Japanese species of the genus *Hydraena* (Coleoptera, Hydraenidae). *Kontyû, Tokyo*, 56: 62-66.

緒方 健・中島 淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227-243.

西原昇吾ほか, 1998. 石川県の昆虫: 85-89・121-128・154-155. 石川県自然保護課.

佐藤正孝・吉富博之, 2005. 鞘翅目 Coleoptera. 川合禎次・谷田一三(編), 日本産水生昆虫一科・属・種への検索: 591-658. 東海大学出版会.

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II): 433-440. 保育社.

吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之, 2000. 日本産セシジダルマガムシ属概説. 甲虫ニュース, (130): 5-11.

吉富博之, 2003. 日本産ダルマガムシ科. 昆虫と自然, (38): 23-26.

(愛媛大学大学院農学研究科, 渡部晃平)

○石川県におけるキボシケシゲンゴロウの初記録

キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculatus* KAMIYA (図1) は山地の清流に生息し、よどみの石の下や、落ち葉の下などから採集される(森ら, 2002). 筆者は、石川県初記録となる本種を確認したので、ここに報告する。

2 exs., 石川県鳳珠郡能登町字北河内, 20. VI. 2010, 筆者採集・保存.

採集地は町野川の上流部で、本流の淀みに生えている植物の根際から得られた。個体数は少なく、3



図1

時間程採集を行ったが2個体しか得ることができなかった。同水系の他の河川にも生息している可能性があるため、今後の調査が期待される。なお、その他の水生昆虫はサワダマメゲンゴロウ、オナガミズスマシが確認された。

末筆ではあるが、現地の貴重な情報を提供していただいた谷口正成氏、佐野禎宣氏にお礼を申し上げる。

引用文献

森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ: 58-59 pp. 文一総合出版.

西原昇吾ほか, 1998. 石川県の昆虫: 121-128 pp. 石川県自然保護課.

(愛媛大学大学院農学研究科, 渡部晃平)

○岐阜県におけるハナノミ2種の採集例

筆者は、岐阜県揖斐川町において岐阜県下では採集例の少ない2種のハナノミを採集したので、報告する。報告にあたり、同定ならびに岐阜県下の採集記録についてご教示いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏博士にお礼申し上げる。なお、標本は、高桑博士の下に保管されている。

(1) オオオビハナノミ *Glipa (Macroglipta) shirozui* NAKANE, 1949

1♂, 岐阜県揖斐郡揖斐川町親谷(標高約500m), 25. VII. 2010, 長谷川道明採集.

ヤマグワの葉上に飛来したものを採集した。岐阜県下では飛騨地方(鳥飼, 1968)と美濃市(大橋他, 1992)の記録がある。

(2) ミツオホシハナノミ *Hoshihananomia mitsuoi* NAKANE et NOMURA, 1950

1♂, 岐阜県揖斐郡揖斐川町坂内坂本(標高約250m), 25. VII. 2010, 長谷川道明採集.

道路上を飛行中の個体を採集した。本種は九州から愛知県までの地域で採集されている(高桑, 2007a; 2007b). 分布北限にあたる愛知の尾張地方では最近になって採集例が増えてきている(河路, 2009). 岐阜県下では、多治見市(河路, 2009)に次いで2例目の記録になると思われる。

引用文献

河路掛吾, 2009. ミツオホシハナノミの尾張地方周辺の記録. 佳香蝶, 61(239): 31.

大橋章博・野平照雄・渡辺公夫, 1992. 訪花性誘引剤で捕獲された昆虫類. 岐阜県林業センター研究報告, (20): 15-48.

高桑正敏, 2007a. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 10. 甲虫ニュース, (157): 1-4.

高桑正敏, 2007b. 富山県からのウスキボシハナノミと愛知県からのミツオホシハナノミの記録. 甲虫ニュース, (158): 12.

鳥飼兵治, 1968. 飛騨地方の鞘翅目の分布について. 生物教育, 13: 137-154.

(豊橋市自然史博物館, 長谷川道明)

○東京都板橋区のクロホシタマクモゾウムシ

クロホシタマクモゾウムシ *Egiona picta* (ROELOFS) は関東地方では神奈川県の記事はやや多いが、一般的には少ない種のように千葉県、栃木県で数例、東京都からは伊豆諸島の記録はあるが、本土部からの報告例は見当たらなかった。筆者は東京都板橋区で本種を4例採集しているため報告する。採集、標本保管はすべて筆者である。なお産地の緯度経度は国土地理院の「地図閲覧サービス <http://watchizu.gsi.go.jp>」によった。

1 ex., 板橋区成増1-36 (北緯 35.779 度 東経 139.626 度), 17. VI. 2006.

1 ex., 板橋区赤塚5-34 都立赤塚公園城址地区 (北緯 35.784 度 東経 139.644 度), 23. IV. 2005.

1 ex., 同地, 8. V. 2010. 1 ex., 同地, 22. V. 2010.

成増の例は小面積の雑木林のクヌギ樹幹に着生していたツタ (*Parthenocissus tricuspidate*) から叩き網で、赤塚公園の例はコナラ、イヌシデを主な樹種とする雑木林に点在するスギ樹幹のツタから2例 (内1例のスギは枯れ木)、5月22日の例は雑木林と園路の境にある金網フェンスに着生したツタから、いずれも叩き網で採集した。東 (2002) は本種を10月後半にツタから得た例を既に報告している。なお成増の産地は2006年の夏に開発のため消滅したが、隣接していた成増1-35の樹林地は現在、自

然地保護を主な目的とした閉鎖型の区立公園となっている。

5月8日に採集した個体を、プラスチックケース内にツタとクヌギの新葉を入れ、5月19日に死亡するまで10日間飼育した。本種は叩き網に落ちた時もゾウムシ類にしては俊敏に動く種だが、飼育中もケース壁をかなりの速度で頻繁に歩きまわっていた。しかし上翅を上げるなどの飛び立つ素振りは見られなかった。ツタの当年匍匐枝に時々静止し、口吻を押し当てるのを観察、当の若枝には明らかに穴は開けられていた。以前に開けた穴に口吻を深く刺しているのも観察した。クヌギに関しては、ツタ上のように静止することはなかった。

野外での生態を確認するため、赤塚公園の採集地点でツタの若枝、葉柄を中心に目視により数回探索したが空振り、5月22日に1個体を叩き網で得たのみである。この個体も飼育したがツタに口吻を刺すこともなく26日に死亡した。

本種の従来の記録例は3月初旬から4月に飛翔中のもの等、5月初旬には飛翔中のものに加え灌木等からの叩き網でも得られている。筆者が6月17日に採集した個体は前胸背、上翅の白色毛が4月採集の個体に較べると大分かすれており発生末期と推察される。関東地方では7月以降の報告例は無いようで、10月初旬からまた見られるようになる。雑木林の落葉下で越冬中の記録があり、神奈川県では2月上旬に活動中のものも記録されている。以上から本種は秋に新成虫が出現し越冬、早春から飛翔活動を開始、6月後半に成虫は死に絶えるという周年経過が予想される。

本種の生息環境の一つは、ツタが生えるような比較的明るい樹林地であると思われるが、ツタあるいはブドウ科に特有な種であるかどうかは現時点では不明。なお、成増の産地は林縁部にノブドウ、エビヅルがあったが、赤塚公園の採集地点付近にはツタ以外のブドウ科植物は見られない。



赤塚公園採集地点の状況



赤塚公園フェンス、左端のツタから1例採集

参考文献

- 東 浩司, 2002. 豊中の甲虫相. 関西甲虫談話会資料 (19). 1-101 pp.
- 稲泉三丸, 2003. ゾウムシ科 Curculionidae. とちぎの昆虫 II: 456-492.
- 平野幸彦, 1979. 小田原箱根地方産ゾウムシ科及びオサゾウムシ科について. 神奈川虫報, (55): 19-286.
- 田尾美野留, 1991. 津久井・県央地域の甲虫類の記録. 神奈川虫報, (96): 24-28.
- 田尾美野留・岸 一弘, 1993. 茅ヶ崎市の甲虫. 神奈川虫報, (104): 13-66.
- 東京都環境保全局, 1998. 東京都の保護上重要な野生生物種 1998 年版. 61-66 pp.
- 上田康之, 1995. クロホシタマクモゾウムシの冬期採集例. 神奈川虫報, (111): 19.
- 山崎秀雄・宮内博至, 2004. 市川市のコウチュウ目 II. 市川市自然環境実態調査報告書 2003: 751-853.
- 吉田 進, 2001. 相模原市で採集された注目すべき甲虫

類, 神奈川虫報, (135): 37-44.
 渡 弘, 2000. 5-14 COLEOPTERA コウチュウ目. 神奈川虫報, (130): 115-286.
 大木 裕, 2010. 横浜国大常盤台キャンパスにおける甲虫類記録. 神奈川虫報, (169): 9-13.
 平野幸彦, 2004. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫

誌 II: 335-835.
 小島博昭・小椋山賢二・森田正彦, 2007. 日本産ゾウムシデータベース
<http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp/jwdb/index.html>
 (東京都板橋区, 釣巻岳人)

ミサゴの巣で確認されたアカマダラハナムグリ

野中俊文・野口将之・飯嶋一浩

アカマダラハナムグリ *Anthrachophora rusticola* は全国的にも比較的まれな種で, 23 府県のレッドデータブックで絶滅種から情報不足など様々なカテゴリーに指定されている (日本のレッドデータ検索システム <http://www.jpnrdb.com/>). 近年, 猛禽類の巣より成虫や幼虫が確認され (楨原ら, 2004; 佐藤ら, 2006 など), その生態についても断片的な報告がされている (石川ら, 2004; 山田ら, 2007). これまでに国内からは, サシバ *Butastur indicus* (山田ら, 2007), クマタカ *Spizaetus nipalensis* (楨原ら, 2004), ハチクマ *Pernis apivorus* (楨原ら, 2004; 佐藤ら, 2006), オオタカ *Accipiter gentilis* (越山, 2005) の繁殖巣およびその周辺で本種の成虫や幼虫が確認されている. また, 2009 年にはコウノトリ *Ciconia boyciana* の巣からも成虫が見つかっている (三橋, 2009). 筆者らは, 富山県内のミサゴ *Pandion haliaetus* の巣で本種を確認したので確認状況とあわせて以下に報告する.

アカマダラハナムグリを確認したミサゴの巣は, 胸高直径 84 cm, 高さ約 24.5 m のモミ *Abies firma* の樹頭に架巢してあり, 巣の長径 70 cm, 短径 60 cm, 厚さ 30 cm 程度であった. 当該巣を利用したミサゴが繁殖を中断したことから, 5 月下旬に巣の状況確認を行ったところ, 巣材の中にアカマダラハナムグリの成虫が 10 頭以上見られた. 成虫を発見してから約 3 週間後, 同巣にて卵と幼虫の確認調査を行った. その結果, 6 個の卵と, 15 頭の初齢幼虫が得られた (これらの卵と幼虫は飼育によって羽化させ, アカマダラハナムグリであることを確認した).

アカマダラハナムグリの猛禽類の巣内での生態は明らかになっていないが, 野外成虫は初夏から猛禽類の巣に飛来, 産卵し, 孵化した幼虫は晩夏までに成虫になり分散することを, 筆者の一人飯嶋は屋外飼育実験から推定している. 本調査の結果は, 一例ではあるものの, 春季の成虫の行動および産卵までの記録が得られたことになる. なお, 採集した幼虫のうち 2 頭 (採集日から 3 日後に 2 齢に達していた個体) については, 回収したミサゴの巣材からイネ科の腐植を取り出し, これのみを餌として飼育したところ, 良好に発育して 8 月上旬には成虫が蛹室から出た. 具体例が明記されていないものの, 日本甲虫学会 (1956) によれば「幼虫は堆肥・藁屋根等の植物の腐蝕した中に育つ」とされており, 今回の飼育結果は少なくともアカマダラハナムグリが藁葺屋根で発生できる可能性を支持している. 今後は猛禽類の巣以外の発生場所も注意深く探索する必要があると思われる.

最後に, ミサゴの巣におけるアカマダラハナムグリの確認の可能性についてご示唆いただいた「富山県自然公園ねいの里」湯浅純孝館長に, この場を借りてお礼を申し上げる.

2 exs., 25-V-2010, 富山県, 野口将之採集, ねいの里保管, その他 10 頭以上を目撃.

卵 6 exs., 初齢幼虫 15 exs., 18-VI-2010, 富山県, 野中俊文・野口将之採集, 飯嶋一浩保管.

引用文献

- 石川 均・新井 真, 2004. アカマダラハナムグリの一生態について. 甲虫ニュース, (148): 13.
 越山洋三, 2005. オオタカ営巣木の根際より見つかったアカマダラハナムグリ幼虫. 日本鞘翅学会大 18 回大会講演要旨集: 22-23.
 楨原 寛・阿部 学・新里達也・早川浩之・飯嶋一浩, 2004. ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, (148): 21-23.
 三橋弘宗, 2009. 兵庫県版レッドデータブック絶滅種の競演. ひとはく新聞, (30).
 日本甲虫学会, 1956. 原色日本昆虫図鑑 (上) 甲虫編 改訂増補版. p.103. 保育社, 大阪.
 日本のレッドデータ検索システム (<http://www.jpnrdb.com/>)
 佐藤隆士・鈴木祥悟・楨原寛, 2006. アカマダラハナムグリのハチクマ巣利用. 昆虫ニューシリーズ, 9(2): 46-49.
 山田辰美・新井 真・松岡陽一・関川文俊, 2007. 猛禽類の巣で繁殖するアカマダラハナムグリの生息環境. 富士常葉大学研究紀要, (7): 213-219.

(野中, 野口: 株式会社建設技術研究所 埼玉県浦和市)
 (飯嶋: 東京農業大学短期大学部 環境緑地学科緑地生態学研究室)

2007・2008年トカラ列島調査において採集されたコガネムシ上科

稲田 悟 司・木村 正 明

はじめに

筆者らはトカラ列島（鹿児島県鹿児島郡十島村）において、2007年にオキナワリチラシ（マダラガ科）、ゴマフカミキリ類、ピロウドカミキリ類、また2008年にはカミキリムシ類、以上各々のDNA解析資料を得ることを主目的とした調査を行った。今回は上記調査の際に併せて採集されたコガネムシ上科について報告する。なお本調査は十島村より昆虫の採取及び捕獲に関する許可を受けて行ったものである。

今回の調査は2007年に口之島・中之島・諏訪之瀬島・宝島、また2008年には中之島において実施し、2年間で合計5科36種のコガネムシ上科が採集された（表1）。

各島の調査日程・調査者を以下に記す。

口之島：2007年6月17～18日（木村）

中之島：2007年6月10～18日（稲田）、2008年6月28日～7月4日（稲田）

諏訪之瀬島：2007年6月6～9日（稲田）

宝島：2007年6月19日（木村）

採集記録

各島における採集記録を調査場所別・年度別に示す。それぞれ種のデータは、種名・個体数・調査方法の順に記す。なお、調査方法および略称は以下のとおりである。

灯火：ライトトラップ（スクリーンおよびボックス）、その他の灯火（自動販売機、街灯など）

果実：フルーツトラップ（バナナを使用）

糞：糞トラップ（獣人糞）

羽毛：羽毛トラップ

アカネ：昆虫誘引剤「アカネコール」と誘引器を用いたトラップ

FIT：フライトインターセプトトラップ

任意：任意採集（上記以外の採集法）

【口之島】 燃岳 2007年6月17日

アマミノコギリクワガタ；トカラ列島亜種 *Prosopocoilus dissimilis elegans* 3 exs. (灯火)

アオドウガネ *Anomala albopilosa* 10 exs. (灯火)

スジコガネ *Anomala testaceipes* 3 exs. (任意)

アオヒメハナムグリ；原名亜種 *Gametis forticula forticula* 1 ex. (任意)

【口之島】 セランマ 2007年6月18日

アマミノコギリクワガタ；トカラ列島亜種 *Prosopocoilus dissimilis elegans* 1 ex. (灯火)

リュウキュウピロウドコガネ *Maladera oshimana* 1 ex. (灯火)

アオドウガネ *Anomala albopilosa* 21 exs. (灯火)

サンカクスジコガネ *Anomala triangularis* 3 exs. (灯火)

リュウキュウツヤハナムグリ；中之島亜種 *Protaetia pryeri tsutsui* 1 ex. (任意)

【中之島】 大木崎 2007年6月10日～18日

アマミノコギリクワガタ；トカラ列島亜種 *Prosopocoilus dissimilis elegans* 12 exs. (灯火, 果実)

コクワガタ；トカラ列島亜種 *Dorcus rectus kobayashii* 4 exs. (灯火)

ネブトクワガタ；中之島亜種 *Aegus laevicollis asaii* 1 ex. (任意)

アラメヒメコブスジコガネ *Trox inadai* 1 ex. (羽毛)

マルダルマコガネ *Panelus ovatus* 8 exs. (糞, 羽毛)

カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii* 4 exs. (糞)

ムラサキエンマコガネ；奄美亜種 *Onthophagus murasakianus carnarius* 13 exs. (糞, FIT)

コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* 2 exs. (糞)

フチケマグソコガネ *Aphodius urostigma* 1 ex. (灯火)

オビマグソコガネ *Aphodius uniplagiatus* 1 ex. (灯火)

ヒメセスジカクマグソコガネ *Rhyparus helophoroides* 21 exs. (灯火)
 キュウシュウカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus kitanoi kitanoi* 1 ex. (灯火)
 セスジカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus azumai azumai* 2 exs. (灯火)
 リュウキュウビロウドコガネ *Maladera oshimana* 2 exs. (灯火)
 フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* 5 exs. (灯火)
 イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai* 1 ex. (灯火)
 トカラクロコガネ *Holotrichia tokara* 2 exs. (灯火)
 セマダラコガネ *Exomala orientalis* 3 exs. (灯火)
 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 35 exs. (灯火)
 スジコガネ *Anomala testaceipes* 45 exs. (灯火)

【中之島】楠木 2007年6月10日~18日

アマミノコギリクワガタ; トカラ列島亜種 *Prosopocoilus dissimilis elegans* 4 exs. (灯火, 果実)
 コクワガタ; トカラ列島亜種 *Dorcus rectus kobayashii* 2 exs. (灯火)
 アラメヒメコブスジコガネ *Trox inadai* 4 exs. (羽毛)
 マルダルマコガネ *Panelus ovatus* 1 ex. (羽毛)
 カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii* 3 exs. (灯火)
 ムラサキエンマコガネ; 奄美亜種 *Onthophagus murasakianus carnarius* 3 exs. (糞)
 コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* 4 exs. (糞)
 オビマグソコガネ *Aphodius uniplagiatus* 3 exs. (灯火)
 ヒメセスジカクマグソコガネ *Rhyparus helophoroides* 2 exs. (灯火)
 セスジカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus azumai azumai* 2 exs. (灯火)
 リュウキュウビロウドコガネ *Maladera oshimana* 20 exs. (灯火)
 フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* 1 ex. (灯火)
 イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai* 5 exs. (灯火)
 トカラクロコガネ *Holotrichia tokara* 5 exs. (灯火)
 アオドウガネ *Anomala albopilosa* 6 exs. (灯火)
 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 24 exs. (灯火)
 スジコガネ *Anomala testaceipes* 1 ex. (灯火)
 オオシマアオハナムグリ; 中之島亜種 *Protaetia exasperata nakana* 23 exs. (果実, アカネ, 任意)
 リュウキュウツヤハナムグリ; 中之島亜種 *Protaetia pryeri tsutsuii* 57 exs. (果実, アカネ, 任意)
 アオヒメハナムグリ; 原名亜種 *Gametis forticula forticula* 1 ex. (アカネ)
 ヒラタハナムグリ; 中之島亜種 *Nipponovalgus angusticollis maedai* 1 ex. (アカネ)

【中之島】大木崎 2008年6月28日~7月4日

ルイスツノヒョウタンクワガタ *Nigidius lewisi* 1 ex. (灯火)
 アマミノコギリクワガタ; トカラ列島亜種 *Prosopocoilus dissimilis elegans* 10 exs. (灯火, 果実)
 コクワガタ; トカラ列島亜種 *Dorcus rectus kobayashii* 3 exs. (灯火)
 アラメヒメコブスジコガネ *Trox inadai* 1 ex. (羽毛)
 カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii* 1 ex. (糞)
 ムラサキエンマコガネ; 奄美亜種 *Onthophagus murasakianus carnarius* 1 ex. (糞)
 コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* 1 ex. (糞)
 セスジカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus azumai azumai* 4 exs. (灯火)
 リュウキュウビロウドコガネ *Maladera oshimana* 4 exs. (灯火)
 フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* 6 exs. (灯火)
 イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai* 1 ex. (灯火)
 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 1 ex. (灯火)
 スジコガネ *Anomala testaceipes* 1 ex. (灯火)
 コカブトムシ; 原名亜種 *Eophileurus chinensis chinensis* 1 ex. (灯火)
 オオシマアオハナムグリ; 中之島亜種 *Protaetia exasperata nakana* 1 ex. (果実)

【中之島】楠木 2008年6月28日~7月4日

ルイスツノヒョウタンクワガタ *Nigidius lewisi* 1 ex. (灯火)
 フチトリアツバコガネ; 原名亜種 *Phaeochrous emarginatus emarginatus* 2 ex. (灯火)

コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* 3 exs. (糞)
 オビマグソコガネ *Aphodius uniplagiatus* 2 exs. (灯火)
 ヒメセスジカクマグソコガネ *Rhyparus helophoroides* 1 ex. (灯火)
 キュウシュウカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus kitanoi kitanoi* 1 ex. (灯火)
 セスジカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus azumai azumai* 4 exs. (灯火)
 トカラビロウドコガネ *Maladera satoi* 1 ex. (灯火)
 リュウキュウビロウドコガネ *Maladera oshimana* 5 exs. (灯火)
 フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* 30 exs. (灯火)
 イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai* 4 exs. (灯火)
 トカラクロコガネ *Holotrichia tokara* 1 ex. (灯火)
 セマダラコガネ *Exomala orientalis* 1 ex. (灯火)
 アオドウガネ *Anomala albopilosa* 9 exs. (灯火)
 リュウキュウスジコガネ *Anomala cpustulata* 1 ex. (灯火)
 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 10 exs. (灯火)
 スジコガネ *Anomala testaceipes* 13 exs. (灯火)
 リュウキュウツヤハナムグリ; 中之島亜種 *Protaetia pryeri tsutsui* 2 ex. (果実)
 アオヒメハナムグリ; 原名亜種 *Gametis forticula forticula* 2 exs. (果実)

【諏訪之瀬島】 ナベタオ 2007年6月6日~9日

ネブトクワガタ; トカラ亜種 *Aegus laevicollis abei* 1 ex. (任意)
 マンマルコガネ; 原名亜種 *Madrasostes kazumai kazumai* 1 ex. (任意)
 キュウシュウカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus kitanoi kitanoi* 30 exs. (灯火)
 セスジカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus azumai azumai* 13 exs. (灯火)
 オオシマアオハナムグリ; 諏訪之瀬島亜種 *Protaetia exasperata suwanoseana* 52 exs. (果実, アカネ)

【諏訪之瀬島】 諏訪之瀬 (集落及びその周辺) 2007年6月6日~9日

コクワガタ; トカラ列島亜種 *Dorcus rectus kobayashii* 8 exs. (灯火)
 カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii* 8 exs. (灯火)
 オビマグソコガネ *Aphodius uniplagiatus* 8 exs. (灯火)
 トカラビロウドコガネ *Maladera satoi* 7 exs. (灯火)
 リュウキュウビロウドコガネ *Maladera oshimana* 23 exs. (灯火)
 フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* 3 exs. (灯火)
 イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai* 1 ex. (灯火)
 オキナワシロスジコガネ *Polyphylla schoenfeldti* 6 exs. (灯火)
 セマダラコガネ *Exomala orientalis* 4 exs. (灯火)
 アオドウガネ *Anomala albopilosa* 19 exs. (灯火)
 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 25 exs. (灯火)
 スジコガネ *Anomala testaceipes* 17 exs. (灯火)
 オオシマアオハナムグリ; 諏訪之瀬島亜種 *Protaetia exasperata suwanoseana* 25 exs. (果実, アカネ)
 リュウキュウツヤハナムグリ; 中之島亜種 *Protaetia pryeri tsutsui* 1 ex. (果実)

【宝島】 宝島 (集落周辺) 2007年6月19日

オキナワシロスジコガネ *Polyphylla schoenfeldti* 10 exs. (灯火)
 アオドウガネ *Anomala albopilosa* 12 exs. (灯火)
 サンカクスジコガネ *Anomala triangularis* 23 exs. (灯火)
 クロマルコガネ *Alissonotum pauper* 2 exs. (灯火)

特筆すべき種および特記事項

〈アラメヒメコブスジコガネ〉 (図1)

今回の調査では、当時は未知種であり2008年に記載されたアラメヒメコブスジコガネ *Trox inadai* の採集という成果を挙げることができた。

従来のトカラ列島におけるコブスジコガネ属の記録は SATO (1963), SATO & SAKAI (1994) などにある悪石島からのヒメコブスジコガネ *Trox opacotuberculatus* だけであったが、その後の記録が無いため存在が疑問視されていた。筆者の一人である稲田は河原氏より依頼を受け、諏訪之瀬島・中之島の各所で羽毛トラップを行った結果、2007年に中之島で5個体を採集し、これが本種記載の起因の一つとなった。なお、アラメヒメコ

ブスジコガネのタイプ標本は全て屋久島産の個体である。その他、トカラ列島(中之島)産は軽微な差があるとしてタイプシリーズには加えられていない(その他の産地である種子島・馬毛島も同様)。

記載年の2008年にも中之島で羽毛トラップを行ったが、前年の日付よりも10日以上後の調査であったため成虫の発生がほぼ終わっていたものと考えられ、採集は1個体のみであった。

アラメヒメコブスジコガネ: 1 ex., 2008年7月4日 中之島大木崎 稲田採集。

〈初記録種〉

今回確認されたコガネムシ上科にはトカラ列島初記録の種は含まれていなかったが、調査の遅れている口之島・諏訪之瀬島で採集した種の中にはそれぞれの島で記録の無い種類が含まれていた。一方、中之島からは移入種のセマダラコガネが初めて記録された。これらの初記録種を以下にリストアップする(表1も参照)。

【口之島】初記録の種

リュウキュウピロウドコガネ *Maladera oshimana*

スジコガネ *Anomala testaceipes*

サンカクスジコガネ *Anomala triangularis*

【中之島】初記録の種

セマダラコガネ *Exomala orientalis*

【諏訪之瀬島】初記録の種

マンマルコガネ; 原名亜種 *Madrasostes kazumai kazumai*

オビマグソコガネ *Aphodius uniplagiatus*

キュウシュウカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus kitanoi kitanoi*

セスジカクマグソコガネ; 原名亜種 *Rhyparus azumai azumai*

トカラピロウドコガネ *Maladera satoi*

リュウキュウピロウドコガネ *Maladera oshimana*

イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai*

ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*

スジコガネ *Anomala testaceipes*

リュウキュウツヤハナムグリ; 中之島亜種 *Protaetia pryeri tsutsuii*

〈諏訪之瀬島のリュウキュウツヤハナムグリ〉(図2)

諏訪之瀬島で得られたリュウキュウツヤハナムグリ *Protaetia pryeri* は、白斑の模様・翅端部の形状より中之島亜種 subsp. *tsutsuii* と判断した。トカラ列島のハナムグリ類は従来から注目されていたにもかかわらず、諏訪之瀬島のリュウキュウツヤハナムグリはこれまで記録が無かったことから、近年移入の可能性が高いのではないと思われる。

リュウキュウツヤハナムグリ中之島亜種: 1♀, 2007年6月6日 諏訪之瀬島集落付近 稲田採集。フルートトラップにより採集。

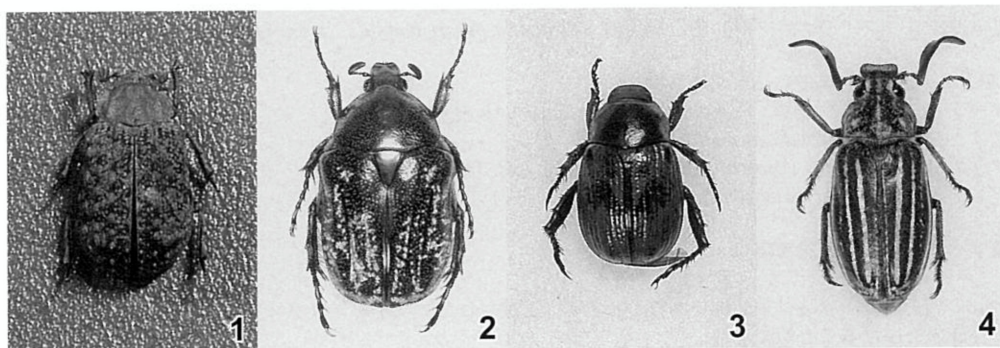


図1. アラメヒメコブスジコガネ(中之島産)
 図2. リュウキュウツヤハナムグリ(諏訪之瀬島産)
 図3. セマダラコガネ(中之島産)
 図4. オキナワシロスジコガネ(諏訪之瀬島産)

表 1

科名	和名	学名	口之島	中之島	諏訪之瀬島	宝島
クワガタムシ科	ルイスツノヒョウタンクワガタ	<i>Nigidius lewisi</i>		○		
	アマミノコギリクワガタ (トカラ列島亜種)	<i>Prosopocoilus dissimilis elegans</i>	○	○		
	コクワガタ (トカラ列島亜種)	<i>Dorcus rectus kobayashii</i>		○	○	
	ネプトクワガタ (中之島亜種)	<i>Aegus laevicollis asaii</i>		○		
	ネプトクワガタ (トカラ亜種)	<i>Aegus laevicollis abei</i>			○	
コブスジコガネ科	アラメヒメコブスジコガネ	<i>Trox inadai</i>		○		
マンマルコガネ科	マンマルコガネ (原名亜種)	<i>Madrasostes kazumai kazumai</i>			◎	
アツバコガネ科	フチトリアツバコガネ (原名亜種)	<i>Phaeochrous emarginatus emarginatus</i>		○		
コガネムシ科	マルダルマコガネ	<i>Panelus ovatus</i>		○		
	カドマルエンマコガネ	<i>Onthophagus lenzii</i>		○	○	
	ムラサキエンマコガネ (奄美亜種)	<i>Onthophagus murasakianus carnarius</i>		○		
	コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i>		○		
	フチケマグソコガネ	<i>Aphodius urostigma</i>		○		
	オビマグソコガネ	<i>Aphodius uniplagiatus</i>		○	◎	
	ヒメセスジカクマグソコガネ	<i>Rhyparus heloporoides</i>		○		
	キュウシュウカクマグソコガネ (原名亜種)	<i>Rhyparus kitanoi kitanoi</i>		○	◎	
	セスジカクマグソコガネ (原名亜種)	<i>Rhyparus azumai azumai</i>		○	◎	
	トカラビロウドコガネ	<i>Maladera satoi</i>		○	◎	
	リュウキュウビロウドコガネ	<i>Maladera oshimana</i>	◎	○	◎	
	フタスジカンショコガネ	<i>Apogonia bicarinata</i>		○	○	
	イシハラカンショコガネ	<i>Apogonia ishiharai</i>		○	◎	
	トカラクロコガネ	<i>Holotrichia tokara</i>		○		
	オキナワシロスジコガネ	<i>Polyphylla schoenfeldti</i>				○ ○
	セマダラコガネ	<i>Exomala orientalis</i>			◎	○ ○
	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i>		○	○	○ ○
	リュウキュウスジコガネ	<i>Anomala cpustulata</i>			○	
	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocyprea</i>			○	◎
	スジコガネ	<i>Anomala testaceipes</i>		◎	○	◎
	サンカクスジコガネ	<i>Anomala triangularis</i>		◎		○
	コカプトムシ (原名亜種)	<i>Eophileurus chinensis chinensis</i>			○	
	クロマルコガネ	<i>Alissonotum pauper</i>				○
	オオシマアオハナムグリ (中之島亜種)	<i>Protaetia exasperata nakana</i>			○	
	オオシマアオハナムグリ (諏訪之瀬島亜種)	<i>Protaetia exasperata suwanoseana</i>				○
	リュウキュウツヤハナムグリ (中之島亜種)	<i>Protaetia pryeri tsutsuii</i>		○	○	◎
	アオヒメハナムグリ (原名亜種)	<i>Gametis forticula forticula</i>		○		
ヒラタハナムグリ (中之島亜種)	<i>Nipponovalgus angusticollis maedai</i>		○			
5科		36種	7	30	18	4

○: 既知種
◎: 初記録種

〈セマダラコガネ〉 (図 3)

セマダラコガネ *Exomala orientalis* はトカラ列島では 2002 年に初めて諏訪之瀬島で採集されているが (吉道, 2006), 今回中之島でも新たに記録された。また諏訪之瀬島では, 集落内の民家の灯火で採集しており, 同所の庭の芝生で発生している可能性が推測される。

九州離島では, 芝生は九州本土から運ばれる場合が多く, 芝生の移動により根周りの土ごと移入された可能性が高い。前に述べたリュウキュウツヤハナムグリ, また後に述べる走光性を有する種を含めたコガネムシ上科の多くの種が, 庭木や芝・観葉植物などに付随する土壌とともに移入されている可能性がある。

〈諏訪之瀬島のオキナワシロスジコガネ〉(図4)

従来オキナワシロスジコガネ *Polyphylla schoenfeldti* は渡瀬線の南に分布し、その北限はトカラ列島宝島とされていた。渡瀬線の北側には周知のとおりシロスジコガネ *Polyphylla albolineata* が分布し、その南限は種子島・屋久島とされている。

藤岡(2001)の目録には、オキナワシロスジコガネの分布域としてトカラ列島諏訪之瀬島が挙げられているが、筆者らはこの記録の原典を見出すことができなかった。このことを藤岡昌介氏に問い合わせたところ、同氏の手許に諏訪之瀬島産の標本があり、「目録」はこの標本を基に記述したものであろうという情報を得た。そこで藤岡氏および小林裕和氏の手を煩わし改めてその標本を調べていただいたので、ここに記録する。

オキナワシロスジコガネ: 1♀, 諏訪之瀬島 1988年7月7日 藤田宏採集

前述のとおり、オキナワシロスジコガネは渡瀬線以南に分布する東洋区の昆虫と考えられ、諏訪之瀬島の分布は不自然である。海流による分布の拡大も否定はできないが、移入(おそらく宝島から)の可能性が高いものと考えられる。少なくとも20年にわたり発生が継続しているのか、たびたび移入が繰り返されているのかは確認できない。

〈亜種の扱いについて〉

トカラ列島を含む琉球列島に分布するコガネムシ上科には、島あるいは島群ごとに多くの亜種が記載されている。しかしながら近年の研究により、亜種の特徴の差が軽微なものや個体変異が激しい場合などには一部の亜種の扱いは保留した方が妥当であるという指摘が相次いでいる(MATSUMOTO, 2007, MATSUMOTO, 2009, KOBAYASHI & FUJIOKA, 2009, KOBAYASHI, 2010)。

SATO(2005)は大型船の灯火に誘引されたクロマルコガネの島間移動例を報告している。トカラ列島でも大型船の就航により船の往来が増え、特に港・集落周辺では走光性を有するコガネムシ上科にとっての移入・分布攪乱は無視できない状況にある。またアオドウガネについては移入により亜種間の交雑や分布の攪乱が疑われるため、亜種の扱いは保留した方が妥当であるという指摘(小林・藤岡, 2009)がある。

以上のような指摘および状況を踏まえ、今回のリストでは以下の種について亜種の取り扱いを保留した。

リュウキュウピロウドコガネ *Maladera oshimana*

イシハラカンショコガネ *Apogonia ishiharai*

フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata*

アオドウガネ *Anomala albopilosa*

リュウキュウスジコガネ *Anomala cpustulata*

サンカクスジコガネ *Anomala triangularis*

おわりに

今回の報告では比較的調査がされているコガネムシ上科においても新種や初記録種が少なからず発見される事となった。またトカラ列島(十島村)は2004年から昆虫類の採取・捕獲が禁止されているが、それ以前も一部の分類群のみの調査・採集が多くを占め、十分な昆虫相の調査がされているとは言いがたい。更に生物地理学上の重要地域でもあり、今後も調査の継続が必要である。

筆者らは今後もトカラを含む琉球列島の調査を積極的に行う予定であり、各分類群の研究者の方々から委託等の協力を得られれば幸いである。

末筆ながら、本調査に際し昆虫の採取及び捕獲に関する許可を十島村から受けるにあたり大変お世話になった大林延夫博士、大和田 守博士に深甚の謝意を表す。またアラメヒメコブスジコガネの記載で格別の配慮を頂いた越智輝雄氏、河原正和氏、稲垣政志氏、ならびにピロウドコガネ類・カンショコガネ類・食糞群の同定についてお世話になった小林裕和氏、河原正和氏、そのほか発表に際する情報収集などで便宜を図っていただいた藤岡昌介氏、川井信矢氏、新居 悟氏、以上の各氏に心から感謝したい。

引用文献

- 藤岡昌介, 2001. 日本産コガネムシ上科総目録. *KOGANE*, Suppl., (1): iv+293 pp. コガネムシ研究会.
 藤岡昌介, 2004. 「日本産コガネムシ上科総目録」その後(1). 鯉角通信, (8): 71-74
 藤岡昌介, 2005. 「日本産コガネムシ上科総目録」その後(2). 鯉角通信, (11): 35-43.
 藤岡昌介, 2007. 「日本産コガネムシ上科総目録」その後(3). 鯉角通信, (15): 53-72.
 藤岡昌介, 2008. 「日本産コガネムシ上科総目録」その後(4). 鯉角通信, (17): 73-89.
 藤岡昌介, 2009. 「日本産コガネムシ上科総目録」その後(5). 鯉角通信, (19): 83-90.
 細谷忠嗣・清拓哉・川上悠希, 2009. トカラ列島調査で採集されたコガネムシ上科甲虫. 鯉角通信, (19): 3-14.
 稲田悟司, 2004. 昆虫誘引剤(アカネコール)・誘引器による採集法. 鯉角通信, (8): 61-63.

- KOBAYASHI, H., 2008. Notes on some species of the genus *Maradera* from Japan (Coleoptera, Scarabaeidae, Melolonthinae, Sericini). *Kogane, Tokyo*, (9): 51-64.
- KOBAYASHI, H., 2010. Notes on some species of the genus *Apogonia* from Japan (Coleoptera, Scarabaeidae, Melolonthinae). *Kogane, Tokyo*, (11): 21-26.
- KOBAYASHI, H. & FUJIOKA, M., 2009. Notes on some species of the genus *Mimela* and *Anomala* from Japan (Coleoptera, Scarabaeidae, Rutelinae, Anomalini). *Kogane, Tokyo*, (10): 41-47.
- MATSUMOTO, T., 2007. Taxonomic notes on some Melolonthinae species (Scarabaeidae, Melolonthinae) from Japan. *Kogane, Tokyo*, (8): 31-35.
- MATSUMOTO, T., 2009. A taxonomic note on *Apogonia bicarinata* LEWIS (Scarabaeidae, Melolonthinae, Diplotaxini). *Kogane, Tokyo*, (10): 1-4.
- OCHI, T., KAWAHARA, M., & INAGAKI, M., 2008. A new species of the genus *Trox* from Yakushima Is., southwest Japan (Coleoptera, Scarabaeoidea, Trogidae). *Kogane, Tokyo*, (9): 31-35.
- SATŌ, M., 1963. Miscellaneous Notes on the Coleoptera-Fauna of the Ryukyu Archipelago (2). *Ent. Rev. Japan*, 16: 24.
- SATŌ, M., 2005. Records of *Alissonotum pauper* (Coleoptera, Scarabaeidae) in the Ryukyus. *Elytra, Tokyo*, 33(1): 362.
- SATŌ, M. & SAKAI, M., 1994. The Coleoptera of Akuseki-jima. In WWF Japan Science Report. Vol. 2. Part 2. Ecological Survey of Tokara Islands, 2(2): 281-287.
- 吉道俊一, 2006. トカラ列島産コガネムシ類に関する記録・報告. 鯉角通信, (12): 19-25.
 (稲田: 〒901-2134 沖縄県浦添市港川 1-22-1 A-113 (有)サウス・フィールドリサーチ)
 (木村: 〒900-0012 沖縄県那覇市泊 1-35-5 (有)ガシヨウ)

○九州本土から発見されたクロクシヒゲコメツキダマシ

クロクシヒゲコメツキダマシ *Procladidus coomani* FLEUTIAUX, 1927 は, Tonkin 産の個体に基づいて命名記載された種である. その後は, 長い間記録がなく, 鹿児島県屋久島で採集された 1 雌個体の記録が唯一あるに過ぎなかった (鈴木, 2000). 最近の MUONA ら (2007) の旧北区のカタログによると, 本種の分布域として台湾があげられているが,



残念ながらその出典については明記されていない. 筆者らは, これまで記録のなかった鹿児島県大隅半島と宮崎県から本種を発見することができたので, ここに九州本土初記録として報告しておきたい.

1♀, 鹿児島県肝属郡南大隅町佐多辺塚杉山谷 (標高 180 m), 18. VII. 2009, 野田 亮採集 (マテバシイの倒木上より); 1♀, 宮崎県東臼杵郡美郷町 (旧日南市北郷町) 大戸野 (No. 4731-5246), 6. VI. 2010, 笹岡康則採集 (樹種不明の朽木に止まっていたもの) (写真); 1♀, 宮崎県東諸県綾町大森岳林道 (No. 4831-0164), 18. VIII. 2010, 笹岡康則採集 (イスノキの伐採木に飛来したもの).

本種は体長 13~18 mm と大型であること, 触角が第 3 節より 2 櫛歯状を呈すること, 翅端が鋭く尖らないなどの特徴をもつことから, 日本産の他のコメツキダマシとの識別は容易である.

発表するにあたり, 標本を提供していただいた笹岡康則氏に厚くお礼申し上げる.

引用文献

- MUONA, J. & ALARUIKKA, D., 2007. Family Eucnemidae ESCHSCHOLTZ, 1829. In I. LÖBL and A. SMETANA (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 81-87. Apollo Books, Stenstrup.
- 鈴木 互, 2000. 日本から初めて発見されたクロクシヒゲコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (131): 5-6.
 (東京都世田谷区, 鈴木 互;
 福岡県久留米市, 野田 亮;
 宮崎県都城市, 木野田 毅)

刊 行 物 紹 介

JÄCH, M. A. & BALKE, M. (eds.) 2010: Water beetles of New Caledonia (part 1).—Monographs on Coleoptera 3: IV + 449 pp.

ニューカレドニアは、日本では「天国に一番近い島」として有名であるものの、その生物相については固有種が多い程度の知識のみで日本人にとってはあまり馴染み深いものではない。実際に、同島の昆虫類相については未解明な部分が多く、その中でも水生甲虫類についてはこれまで断片的な知見しか得られていなかった。そんなニューカレドニアの水生甲虫についての論文集が、Monographs on Coleoptera のシリーズ第3巻として発行された (http://www.coleoptera.at/monographs_on_coleoptera.php)。本書は、既刊の Water Beetles of China (I-III) の姉妹書とでも言えるもので、掲載論文の形式等はよく似ている。本書の基礎となる標本の多くは、2001年と2009年に編者らが行った野外調査で得られたもので、採集地点が写真で示され想像が膨らむ。また、イントロダクションでは地理的特徴や環境、生物地理等にも触れており、同諸島を知る上で参考になる。

本書を見る限り、ニューカレドニアの水生甲虫類相はオーストラリア区の特徴を色濃く示したもので、日本を中心としたアジアの水生甲虫とは異なるものである。しかし、いくつかの論文ではインドネシアを中心に東南アジアの水生甲虫相についても言及しており、アジアの水生甲虫類を研究する上で本書は必要不可欠なものであると考えられる。

なお、本シリーズのパート2の発行も予定されており、ダルマガムシ科、マルハナノミ科、およびその他のいくつかの科について扱われる予定であるが、発刊時期は未定である。

冊60€(ユーロ)で、ウィーン甲虫学会会員には40€で販売している。今のところ Dr. H. SCHÖNMANN (Naturhistorisches Museum Wien, Burgring 7, A-1010 Wien, Austria. E-mail: heinrich.schoenmann@nhm-wien.ac.at) に直接注文するようだ。

各論文のタイトルと頁は以下の通りである。

JÄCH, M. A. & BALKE, M.: Introduction, 1–29.

MAZZOLDI, P.: Gyrinidae (Coleoptera), 31–43.

WEWALKA, G., BALKE, M. & HENDRICH, L.: Dytiscidae: Copelatinae (Coleoptera), 45–128.

BALKE, M., WEWALKA, G., ALARIE, Y. & RIBERA, I.: Dytiscidae: The genus *Rhantus* DEJEAN (Coleoptera), 129–147.

HENDRICH, L., BALKE, M. & WEWALKA, G.: Dytiscidae: Hydroporini (Coleoptera), 149–162.

BRANCUCCI, M. & HENDRICH, L.: Dytiscidae: *Typhlodessus monteithi* BRANCUCCI—redescription and notes on habitat and sampling circumstances (Coleoptera), 163–169.

HENDRICH, L., BALKE, M. & WEWALKA, G.: Dytiscidae: Annotated checklist of Bidessini, Hydrovatini, Hyphydrini, Laccophilinae and Dytiscinae (Coleoptera), 171–194.

TOLEDO, M.: Noteridae: Review of the species occurring east of the Wallace line (Coleoptera), 195–236.

HENDRICH, L. & VONDEL, B. van: Haliplidae (Coleoptera), 237–242.

KOMAREK, A.: Hydrophiloidea: Checklist (Coleoptera), 243–246.

JÄCH, M. A.: Spercheidae (Coleoptera), 247–250.

NASSERZADEN, H.: Hydrophilidae: The genus *Sternolophus* SOLIER (Coleoptera), 251–255.

GENTILI, E.: Hydrophilidae: The genus *Paracymus* THOMSON (Coleoptera), 257–262.

FIKÁKČEK, M.: Hydrophilidae: The genus *Chaetarthria* STEPHENS—description of a new species from New Caledonia and notes on *C. nigerrima* (BLACKBURN) from Australia (Coleoptera), 263–269.

KOMAREK, A.: Hydrophilidae: The genus *Anacaena* THOMSON (Coleoptera), 271–282.

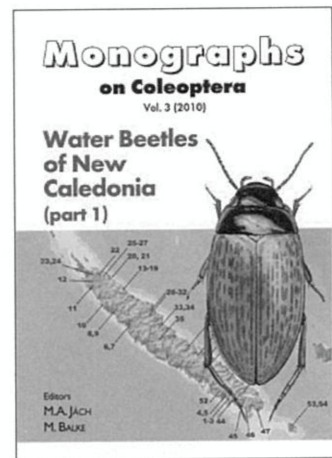
GENTILI, E.: Hydrophilidae: The genus *Laccobius* ERICHSON (Coleoptera), 283–295.

SHORT, E. A. Z.: Hydrophilidae: Review of the subtribe Acidocerina of the Southwest Pacific islands (Coleoptera), 297–318.

SHORT, E. A. Z.: Hydrophilidae: Hydrobiusina (Coleoptera), 319–322.

FIKÁKČEK, M.: Hydrophilidae: Sphaeridiinae (Coleoptera), 323–364.

FIKÁKČEK, M.: Hydrophilidae: The genus *Kanala* BALFOUR-BROWNE (Coleoptera), 365–394.



SKALICKÝ, S.: Heteroceridae: Checklist of the taxa recorded from Indonesia and the Southwest Pacific (Coleoptera) 395-400.

YOSHITOMI, H. & RUTA, R.: Scirtidae: Checklist of the taxa recorded from Melanesia (Moluccas to Fiji) (Coleoptera) 401-402.

RUTA, R. & YOSHITOMI, H.: Scirtidae: The genus *Scirtes* ILLIGER (Coleoptera) 403-438.

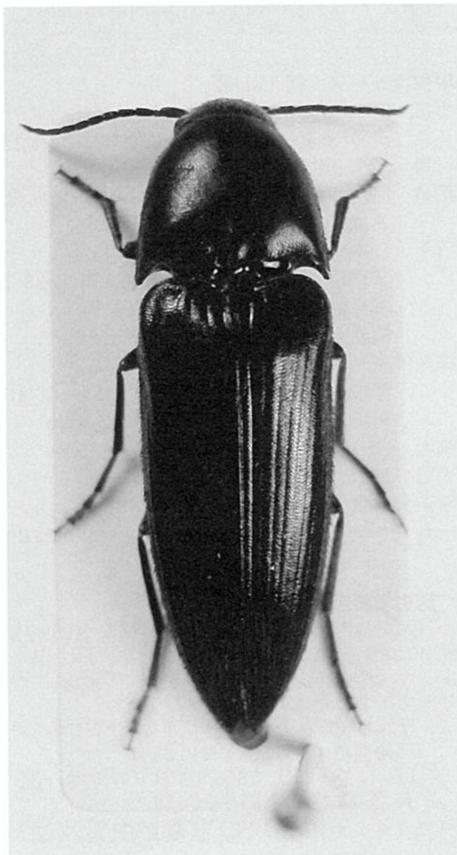
HERNANDO, C. & RIBERA, I.: Limnichidae: Description of a new species from New Caledonia, and checklist of the taxa recorded from the Australian/Pacific Region (Coleoptera) 439-449.

(吉富博之: 愛媛大学ミュージアム)

京都府におけるハラアカトゲバコメツキダマシの記録

蝦田 渉・鈴木 互

ハラアカトゲバコメツキダマシ *Spiniiformax miurai* NAKANE, 1987 は、屋久島の白谷で得られた2雌個体に基づいて、中根(1987)により新種として命名記載された種である。本種は、体が大型であることや、腹部が赤いという顕著な特徴を持ちながらも、記載以後の記録はほとんど無く、わずかに鈴木(2007)により模式産地で採集された1雄個体が報告されているに過ぎない。



著者の1人、蝦田は、これまでまったく記録のなかった本州本土(京都府)において本種を採集することができたので、ここに報告したい。

2♀, 京都府南丹市美山町芦生ブナノキ峠(標高939 m), 7. VIII. 2010, 蝦田渉採集(標本保管: 鈴木互・水野弘造)。

採集されたブナノキ峠はブナ、ミズナラが主体の原生林で、トチノキの大木もみられるが、モミなどの針葉樹は少ない環境である。近年、シカの食害によりササなどの下草がなくなり乾燥が激しくなっており、ブナの立ち枯れも目立つようになってきている。当日の採集は、19時より400 W水銀灯(透明)1灯、20 Wの蛍光灯ケミカルライト2本を点灯したところ、20~23時の間に、暮に2雌のハラアカトゲバコメツキダマシが飛来した。

採集された個体は、いずれも体長18 mmもある大型の雌で、前胸背板に一对の凹みをもつなど、形態の特徴は原記載の個体とよく一致したことから、本種と同定した。本種は日本産のコメツキダマシの中では、最大級の部類で、体が黒色で光沢があることや、上翅端が尖り、腹部腹面が赤いという特徴から、他のコメツキダマシから識別することは容易である。今後、関西以西の地域で調査がされることによって、本種の分布や生態について明らかになることを期待したい。

なお、本記録に用いた標本は、京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林において、今井博之(代表)、二村一男、原田耕平、蝦田 渉の4名(敬称略)による科目名「芦生研究林におけるセミの棲息状況の調査、および夜間灯火採取による成虫の捕獲とそれらの標本化(セミと甲虫)(利用許可番号2番2010年4月1日付)」による調査で得られたものである。

引用文献

中根猛彦, 1987. 日本のコメツキダマシ類についての覚え書き. 月刊むし, (19): 7-11.

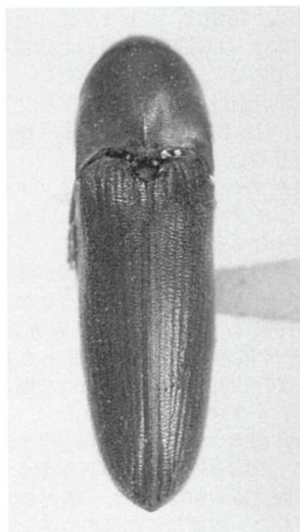
鈴木 互, 2007. ハラアカトゲバコメツキダマシの雄について. 甲虫ニュース, (160): 13.

(蝦田: 京都府福知山市, 鈴木: 東京都世田谷区)

○台湾から発見されたオオナカミゾコメツキダマシ
オオナカミゾコメツキダマシ *Rhacopus olexai*
(HISAMATSU, 1963) は、岐阜県、三重県、愛媛県など
から採集された3個体の雄に基づいて、HISAMATSU
(1963) により、*Dirrhagus olexai* という学名で記載
された種である。

その後の本種に関する記録は少なく、久松 (1985)
によるとその分布は本州と四国となっている。筆者
は、これまで記録のなかった台湾において採集され
た個体を所持しているため、ここに台湾初記録とし
て記録しておきたい。

1♂, 台湾省南投県仁愛郷南山溪, 29. V. 1972, 岡
島秀治採集 (写真)。



報告に当たり、貴重な標本をご提供いただいた、
東京農業大学の岡島秀治博士に厚くお礼申し上げ
る。

引用文献

- HISAMATSU, S., 1963. Six new species of Eucnemidae
from Japan (Coleoptera). *Transactions of the Shi-
koku Entomological Society*, 8(1): 26-34.
久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定
成・佐々治寛之編著, 原色甲虫図鑑 (III): 41-50 pls.,
8-9. 保育社, 大阪.

(東京都世田谷区, 鈴木 互)

○宮崎県におけるメスグロミゾコメツキダマシの記
録

メスグロミゾコメツキダマシ *Torigaia bicolor*
HISAMATSU et SATO は、多くの甲虫図鑑に図示さ
れていることから、よく知られている種であるが、
個体数はかなり少ないようである。これまでに本
州、四国、九州に広く分布することが知られている

が、九州における記録はわずかしがなく、宮崎県の
記録はなかった。

筆者は、宮崎県において採集された個体を検する
ことができたので、分布資料としてここに報告して
おきたい。

1♀, 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町白岩山, 22. VII.
2010, 西野久雄採集。

参考文献

- 久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定
成・佐々治寛之編著, 原色甲虫図鑑 (III): 41-50 (pls.
8-9). 保育社, 大阪.
永井 彪, 1992. 宮崎県産甲虫目録. 宮崎県高等学校教
育研究会理科・生物会編, 宮崎の生物: 252-275.
高倉康雄, 1989. 福岡県の甲虫相. 526 pp. 葦書房.
(東京都世田谷区, 鈴木 互)

◇学会の発行物・バックナンバー販売委託先◇

昆虫文献 六本脚
〒102-0075 東京都千代田区三番町 24-3
三番町 MY ビル 3 階
TEL: 03-6825-1164
FAX: 03-5213-1600
E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp
URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>

甲虫ニュース 第171号

発行日 2010年9月30日
次号(最終号)は2010年12月30日発行予定
発行者 新里達也
編集者 鈴木 互 (編集長), 長谷川道明, 川島逸郎,
奥島雄一, 吉富博之
発行所 日本鞘翅学会
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1
国立科学博物館動物研究部内
電話 03-3364-2311
原稿送付先 (甲虫ニュース) 鈴木 互
〒156-0053 東京都世田谷区桜 3-14-13
電子メール: wsuzuki@hosei2.ed.jp
印刷所 (株)国際文献印刷社
年会費 2010年度 7,000円 (一般会員)
郵便振替口座番号 00180-3-401793
ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsc2/index.html>

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫
針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来
ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り
揃えております。

〒142-0051 東京都品川区平塚2丁目5番8号
郵便振替 00130-4-21129
電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)
F A X (03) 3784-6464
(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社